静中・静高関東同窓会　会報

静中・静高関東同窓会
会報　第63号
平成19年5月31日発行
編集人　村松貴彦（77期）

印高

同窓生お誘い合わせてご参集ください

平成十九年度　関東同窓会総会・懇親会を開催します。

初夏の候、ますますご清栄のことと存じます。日頃は関東同窓会の事業推進にご協力いただき、心より感謝しております。さて以下により平成十九年度総会を開催いたしますので、ご多忙とは存じますが、ご出席くださりますようお願いいたします。

関東同窓会会長・清水　汪

記

日時　七月六日（金）午後6時より。

場所　KKRホテル東京
東京都千代田区大手町一の四の一
（竹橋合同ビル・旧竹橋会館）
十階「瑞宝の間」「平安の間」
TEL 03－3287－2932

懇親会費　4000円
（但し、学生は一〇〇〇円）
年会費の三〇〇〇円は当日受付も致しますが、この会報に同封の振込み用紙によりご納入をお願いいたします。

議題　一号議案　平成十八年度事業報告、会計報告
二号議案　平成十九年度事業計画、予算
三号議案　役員改選

講演　講演者　望月敬生氏　85期
テーマ「日本建築と日本庭園、出会いとこれまで」
プロフィール　別稿

総会、講演終了後は懇親会を開催します。本年は85期の当番幹事の皆さんが準備をしてくれております。皆さん多忙の中、同窓会成功を目指して頑張っていただいております。懇親会の会費は今年も同窓会から補助金を支出して四〇〇〇円といたしました。当日は静岡から恒例の美味しい故郷の味が届きます。

会場は好評のため、昨年度と同じ会場に決めさせていただきました。最寄り駅は地下鉄東西線「竹橋駅」、千代田線「大手町駅」、都営地下鉄「神保町駅」のどこからも徒歩で行ける解りやすい場所ですので、同窓生お誘い合わせの上、お気軽にご参加下さい。

会場案内図

地下鉄　東西線「竹橋駅」3b出口直結
千代田線「大手町駅」C2出口
都営地下鉄「神保町駅」A9出口

同封の葉書に恐れ入りますが五十円切手を貼って、出席か欠席かを、また近況を記し、同窓生の消息をご存知の方は、該当欄に記入して六月二十日までに投函して下さい。

ファクシミリにて送信の場合は、〇三－三二五七－〇八二〇（関東同窓会事務所）までお願いします。

総会・懇親会は七月六日

静中・静高関東同窓会 総会 講演者紹介

講演テーマ
「日本建築と日本庭園、出会いとこれまで」

85期　望月　敬生

浅間神社の参道で生まれ育ち、臨済寺で遊んだ人間が、日本建築の設計の道を選びました。早稲田大学・故渡辺保忠先生のもとで十二年間修行し、平成元年に独立、民間の立場で、主に寺院建築と文化財の仕事に携わっています。平成二年からは日本庭園の龍居竹之介先生と出会い、いつの間にか日本建築と日本庭園の設計に携わることになりました。

こんな男もいるんだといわれるほど、あまり人が選ばない道ですが、この機会に、日本建築の作り方、日本建築の簡単な見方、日本庭園の楽しみ方などについてお話できれば、と思います。

どうぞ多くの方のご参加をお願い申しあげます。

プロフィール

昭和四十四年静岡高校卒業、昭和五十二年早稲田大学建築学科修士課程卒、水澤工務店就職、昭和五十三年より早稲田大学理工学研究所・渡辺保忠先生師事。平成元年、望月敬生建設設計室、平成四年(有)歴史建設設計研究体設立。

〈主な参加建物〉

修行時代

都有形文化財雑司が谷鬼子母神堂修理工事（豊島区）、高畠不動尊五重塔・金堂（日野市）、早雲禅寺天獄院伽藍復興（藤沢市）、府中郷土の森田中家住宅復元工事（府中市）、大本山永平寺別院長谷寺大庫院（港区）

独立後

天覧山能任寺伽藍整備（飯能市）、萬吉山松月院伽藍整備（板橋区）、天羅山眞盛寺伽藍・境内整備（杉並区）、特別史跡・名勝小石川後楽園外周築地塀他（文京区）、特別名勝六義園正門・染井門他（文京区）、名勝貞観園貞観堂修理工事（柏崎市）、世界遺産ルアンプラバーン保健学校大教室修復（ラオス）

静岡の万葉を歩く（三十四）

51期　原崎　郁平

浜松市三ケ日町下尾奈鵺代（ぬえしろ）標高七十七米の浅間山の山頂に次の万葉歌碑が立っている。

花散らふ
この向つ峯の
乎那（おな）の峯（お）の
洲（ひじ）に付くまで
君が齢（よ）もがも

巻十四・三四四八

昭和五十六年五月建立
建立者　三ケ日町教育委員会
揮毫者　犬養孝（国文学者）

寸法は高さ百九十センチ　幅九十センチで根府川石に本文が刻んである。左傍らに副碑（高さ六十センチ　幅五十二センチ）が立っている。

大意は「花が散るこの向かいの嶺の乎那の嶺（浅間山）が、時を経て湖の洲についてしまうまで、あなたがそれほど長い寿命に恵まれますように。」

副碑の裏に次の文章が刻んである。「万葉集東歌乎那の峯を後世に伝えん　文学博士犬養孝先生に揮毫を乞い、町の助成を得て歌碑を建立してより十年となるを記念し、この副碑を建つ。常しえに人の世の幸いを願いて。昭和五十六年五月吉日

山主　河西凛衛　識」

歌碑の所在地は天竜浜名湖鉄道、尾奈駅の北西方約1㎞の浅間山上である。

尾奈駅から徒歩10分弱で山麓の「乎那の峯の入り口」の標識に出会う。ここから山道を約40分登ると山頂に達する。途中に橘逸勢の筆塚がある。

マンサク群落の案内板を頼りに歩けば隣海院の門前を経て浅間山に登るようになっている。石柱の「静岡県指定天然記念物鵺代のマンサク群落、三ケ日指定史跡万葉遺跡乎那の峰」が目印である。傍の説明板によると「百三十株以上自然群生」という。

山頂の一面の松林の間から猪鼻湖が明るく光る。犬養博士によるとこの山主である河西凛衛さんが博士の「万葉の旅」に感激して建てたとのこと。犬養博士の揮毫された全国の歌碑は殆どが白文だが、ここには河西氏による読み下し文の副碑がある。

三ケ日は蜜柑の産地として全国的に知られており、他所にはない濃厚な甘みと酸味を特長とする。浅間山山頂から見える猪鼻湖は浜名湖の支湖で周囲は約12㎞、瀬戸と呼ばれる狭い水道で繋がっており赤い瀬戸橋が架かっている。

平成18年度 収支決算報告書

静中・静高関東同窓会

自平成18年4月1日～至平成19年3月31日

（収入の部）　（単位：円）

科目	予算額	決算額	増減	摘要
年会費	1,800,000	1,558,000	△ 242,000	513名
総会懇親会費	800,000	644,000	△ 156,000	161名
会報広告料	200,000	240,000	40,000	12社
本部助成金	800,000	800,000	0	
受取り利息等	0	27,479	24,727	銀行利息・御祝金
静中静高史料	0	63,000	63,000	21部@3,000円
計	3,600,000	3,332,479	△ 267,521	
前年度繰越金	5,356,532	5,356,532	0	
合計	8,956,532	8,689,011	△ 267,521	

（支出の部）

総会費	1,100,000	1,097,180	△ 2,820	
会場設営費等	200,000	273,260	73,260	
懇親会費	900,000	823,920	△ 76,080	165名（来賓4名）
会報発行費	1,350,000	1,219,773	△ 130,227	年2回　計6,700部
印刷費	500,000	782,413	282,413	
送料	650,000	269,760	△ 38,0240	
編集費	200,000	167,600	△ 32,400	
理事役員会費等	500,000	500,694	694	
旅費交通費	200,000	76,660	△ 123,340	本部・中部支部総会出席
振込手数料	100,000	46,090	△ 53,910	
事務費通信費等	250,000	222,012	△ 27,988	
慶弔費・雑費	80,000	55,745	△ 24,255	本部・中部総会祝い他
静中静高史購入費	400,000	400,000	0	3巻セット　40部
計	3,980,000	3,618,154	361,846	
次期繰越金	4,976,532	5,070,857	94,325	
合計	8,956,532	8,689,011	△ 267,521	

平成19年度 収支予算書（案）

静中・静高関東同窓会

自平成19年4月1日～至平成20年3月31日

（収入の部）　（単位：円）

科目	予算額	前年度予算額	増減	摘要
年会費	1,800,000	1,800,000	0	600名×3,000円
総会懇親会費	800,000	800,000	0	200名×4,000円
会報広告料	240,000	200,000	0	12社×20,000円
本部助成金	800,000	800,000	40,000	
受取り利息等	0	0	0	
計	3,640,000	3,600,000	40,000	
前年度繰越金	5,070,857	5,356,532	△ 285,675	
合計	8,710,857	8,956,532	△ 245,675	

（支出の部）

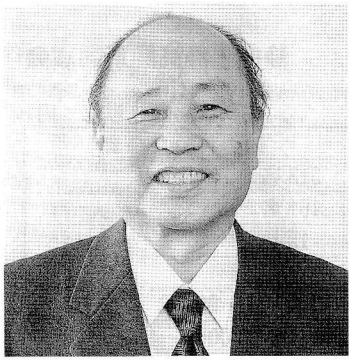
総会費	1,150,000	1,100,000	50,000	200名
会場設営費等	250,000	200,000	50,000	
懇親会費	900,000	900,000	0	
会報発行費	1,350,000	1,350,000	0	年2回　計6,700部
印刷費	500,000	500,000	0	
送料	650,000	650,000	0	
編集費	200,000	200,000	0	
理事役員会費等	600,000	500,000	100,000	
旅費交通費	200,000	200,000	0	本部・支部総会出席
振込手数料	100,000	100,000	0	
事務費通信費等	250,000	250,000	0	
慶弔費・雑費	80,000	80,000	0	本部・支部祝い金他
静中静高史購入費	0	400,000	△ 400,000	
計	3,680,000	3,980,000	△ 300,000	
次期繰越金	5,070,857	4,976,532	94,325	
合計	8,750,857	8,956,532	△ 205,675	

特別寄稿

この春70期の三木卓さんが芸術院賞および恩賜賞を受賞されました。おめでとうございます。で、同窓会会員のために、ぜひ一筆いただきたいとお願いしましたところ、快く同窓生のために寄稿してくれました。

速度を学ぶ
わたしの静高時代

70期　三木　卓



ぼくの静高入学は、昭和二十六年。それまで通っていた城内中学も入学する静高も、駿府城内の旧兵舎を校舎に借用していたから、お隣に引っ越したようなものだった。とくに講堂は両校共有だったから、卒業式が終ると同じ場所で今度は入学式になった。

しかし、合格がきまってから、入学するまでのうれしさといったらなかった。行き場はきまっているし、宿題なんか何もない。伸び伸びとした気分でサクラの満開の静岡の町を陶然と散歩したり、レコードを聞いたり、かわいい女子高生のお姉さまに胸をとどろかせたり、幸福だった。あんなに楽しかったことは、わが人生ではそれ以来とうとう二度とは起らなかった。

しかし、授業がはじまるや否や、天国は地獄となった。とくに数学と英語がきびしくて、ぼくは自分のオツムの出来をハッキリと思い知らされることになった。

よかったのは、通年制のHRになっていたので、上級生といっしょで、かれらから教えをうけることが出来たこと。クラブ活動でも上級生といっしょだったから、かれらの大人としての存在がまずガツンときた。かれらは、自分の将来だけでなく、戦後日本をどのようにしていくか、という、いわば全国区的発想で、顧問の先生方と激論を展開したりしていたから、ガクゼンとした。

静高の上級生から学んだことのうちで、もっとも印象に残っているのが、かれらは、学ぶことにも、行動することにも速度が早い、ということだった。ある速度でものごとをものにしていかなければ、飛行機はとび立てない。志ある上級生たちは、そうして次々にとび立っていった。

ぼくは遂に地上滑走に終始してしまった少年なのだけれど、若手教師群や先輩を見るにつけても、〈時には余裕はないのだ〉という思いは、身にしみついていった。〈ぼくはノロイ。ぼくはノロすぎる。スピードをあげろ〉と、自分にいいきかせていく少年になったのは、静高のおかげである。

苛烈な一九五〇年代。ぼくはヘマにしか生きられなかったが、仲間はみんなきびしく生きながら自分をつくっていった。それは大学に入って同級生から感じたインパクトよりずっとおそろしいものだった。

静高は、だからぼくを威嚇して、よりきびしい道を歩けと命令した場である。人生のなかであれほど大変な思いで生きた時期はなかった。だから今、そこにはいちばん充実した思い出が残っている。したがって、それがぼくのかけがえのない貴重な人間としての体験になっている。

三木さんのこと

71期　浦田　彰

敬愛する三木卓さんが、長年の文学活動の功績によって、今年の芸術院賞とともに恩賜賞を受賞されることは皆さんご存知のとおりです。三木ファンの私としてもうれしい限りです。

静高で三木さんは一年先輩。戸籍名の冨田姓だった三木さんは、文芸部や社研の活動家として学外でも知られた存在でした。また校内誌「塔」の常連で、大人びて知的な作品は今読み返しても、昨今の高校生にはとても太刀打ちできないレベルです。文学のオーラにつつまれて校内を遊弋する三木さんは、眼光鋭く、身辺に秋霜烈日の気配漂い、放送部でLPばかり聴いていた私などチョット近寄り難い先輩でした。今、春風駘蕩、柔和なまなざしの三木さんからは、高校生・冨田三樹を想像できません。

元静高生の皆さんに読んでほしい三木さんの作品があります。「芝笛と地図」（集英社刊）です。静高時代の高校生群像を描いた自伝的青春小説です。めでたく城内中学から静高に入学して最初の英語の授業でToday, being Sunday…という不思議な書き出しに面食らったことや、数学で〝赤ざぶとん〟という不合格点をつけられ徹底的にしごかれたこと、社研の活動で山村工作隊めいた集団生活を経験したこと、美人の下級生にチョッカイを掛け損なったこと、でもそのやさしく優雅な母親の家に入り浸ってベートーベンに聴き惚れていたこと、などなど……あの人、この人、あの先生、この先生とお読みになった皆さんも思わず膝を打つこと請負います。お読みになって、しばし、過ぎにし青春に遊んでください。

六月十八日には上野の日本芸術院で、天皇・皇后両陛下のご臨席のもとに芸術院賞・恩賜賞の授与式があります。晴れの日、三木さんに「ご感想は？」と聞けば、多分「ウン、うれしいね、でもこれからが大変だね。いろいろ書くことが多いしね…」。そうです、三木さん。詩人として、小説家として、エッセイストとして、児童文学者として、まだまだ書くことはあります。いや、書いてください。くれぐれもご自愛のうえですが。

ある集い
七十歳半ばで海外旅行を存分に楽しんでいる女性の話に感服

67期　岡村　英二郎

元NHKアナウンサーの同期生・山川静夫君は、芸能界各分野の著名人を三越劇場に招き、「芸話人」という洒落たテーマをつけ、長年にわたり司会を務め、芸人をして色々な芸の表演やその解説、また内輪の話などを披露させて、観客を二時間余り楽しく面白く、あるいは驚嘆させながら時の経過を忘れさせてくれました。年数回の催しでしたが、惜しまれながら一昨年六月、五十回を以って打ち切りとなりました。

さてその観客に中に、多くの同期生の顔がありました。静岡在住の同期生も多数いて、終演後その同期生たちは銀座の居酒屋に集まり盃を交してその日の「芸話人」の話や身辺の話など、様々な話題に興を起こしながら、懇親のひと時を楽しんだものです。

その同期生たちからもう一度皆と顔を合わせたいという話が持ち上がり、二月二十六日昼、銀座一丁目の土風炉でその場が実現しました。詩人の朝倉勇君、元共同通信の福原享一君、元日本経済新聞の大石脩而君をはじめ小杉謙一君、小杉弘君、手塚重明君、鈴木敏行君、山岡進君、それに私、さらに城北高卒の小杉さん、浜田さん、関野さん、山田さん、長谷川さんが加わり総勢十四人が元気な顔を見せて再会を喜びました。歓談会では、飲み放題の酒に酔いながら料理に舌鼓を打って楽しい会話が弾み、大層な盛り上がりをみせて、許容時間の二時間半はあっという間でした。帰り道、大方の皆さんはコーヒー店に寄ってさらにお喋りの花が咲いたそうです。山川君は残念ながら所用で顔を見せませんでしたが、次の機会には必ず出席したい、皆さんによろしくという返事がありました。それにしても改めて驚いた事は女性の心身の強さです。七十歳台半ばになるのに海外旅行を存分に楽しんでいる話には正に感服の至りです。女性の平均寿命はなるほどな、と知らされた思いです。ところで川上剛二君も出席予定でしたが、元フジテレビアナウンサーの鳥居滋夫君が肺ガンで他界して、その告別式に参列するため、日時が重なり直前になって欠席となりました。

旅の思い出
熊野参拝

74期　藤原　經史

平成十九年の丁亥年も早五月、「時の流れ」は風光の彼方にあっという間に消えて行きます。

先日、熊野三宮参拝の旅をしてきました。私一人であれば、田辺あたりから熊野古道を歩くことが一番と思っておりましたが、女房の足を心配し、バスとタクシーを使って参拝してきました。三泊四日の旅行でしたからゆったりとした気分を味わってきました。

初日は、熊野本宮。熊野川を右手に見てバスは進みます。日本の原郷といわれる折り重なり合う山々を見ておりますと、心の底から新鮮な気持ちになってきます。本宮の近くには川湯、湯ノ峰温泉があり、湯ノ峰温泉の壺ノ湯は、歌舞伎でも有名な小栗判官物語があります。明治二十二年の年に熊野川の大洪水があり、当時の熊野本宮の建物は流されたとか。今は「大斎（おおゆの）原（はら）」として残り、日本一の大鳥居が、空に突き抜けんばかりにたっております。

二日目は熊野那智大社と那智滝を参拝、そして最後に神倉神社参拝。この神倉神社は、二月六日（旧暦一月六日）夜「御燈祭」といって松明を手に数百の石段を駆け下りる神事があるそうです。石段は源頼朝が寄進したとか。上りも下りも大変です。女房は途中から四つんばいになって上ったほどです。

熊野三宮参拝は歴代の天皇も御幸しております。宇多上皇、花山法皇を始めとして、白川上皇三十三回、後鳥羽上皇二十九回と、京都から大変な旅を続けて熊野御幸をされました。熊野は日本の原郷といわれる所以です。日本書紀の神武天皇の熊野入りとか、中国始皇帝の頃、不老不死の薬を求めて当時の「倭国」に渡来したといわれる徐福（中国名徐市）伝説。徐福の墓があり、徐福公園になっています。また、ちょっと離れた所には、イザナミとカグツチの墓がある「花の窟」や補陀洛浄土への出発点とか、私にとって興味ある個所です。またの機会にぜひ行ってみたいと思っております。

熊野川の川原に、ある歌手の「熊野古道」大ヒット中と、大きな字が目に入りました。ちょっとユーモラスな気持ちになりました。

熊野はやはり古道を歩いて参拝するのが一番でしょう。必ずやりたいと思います。

近況報告・雑感
◎いろいろあります

最近の同窓会活動として、コミニュケーション維持のため同窓会理事と当番幹事期のメンバーで定例会と称し毎月集まっています。当面は、七月六日の総会へ向けての準備が主なテーマで85期の幹事期団は近年にない用意周到な準備を重ねており、大いに期待できます。

そして場所を移しての懇親会では、広くて狭い会員同士の兄弟姉妹が意外と各期の有名人？であったり、静岡おでんや黒はんぺん、わさび漬けの銘柄や地元の高校野球の裏話などで盛り上がっています。

皆さんも同窓会会員でお誘い合わせの上、お気軽に参加をお願いします。

通称　関東同窓会幹事団より

同期会情報

顔写真を大きく掲載しました

66期　朝比奈　正二

恒例の春季同期会を四月十九日（第3木曜日）午後1時より中央区八重洲の「北海道」で例年通り開催した。当日は天候にも恵まれ、十一人が参加した。乾杯の後、懇談に入り、鮮魚やカニの料理を味わいながら各々の近況、静中時代から小学校時代の逸話まで出て話がはずんだ。その一端を紹介すると、過日テレビ番組「世界ふしぎ発見！」で数学教育の盛んなインドを取り上げた際、インドの或る要人の一人が番組に登場、暗算問題を出題した。即ち、45×45は？と、しかし直ちに答える回答者は一人もいなかった。実はこの計算方式は小生が小学六年の頃、学校の帰り道に当日同席の高橋裕君（現東大名誉教授）からすでに教わっており、その後しばしば利用していたもの。その方法とは、一般式

$(10a+5)^2=100a^2+100a+25+100a(a+1)+25$ より $a=4$ と置けば2025、同様にして55×55はaを5と置き3025、また65×65はaを6と置き4225となる。

写真右（上より）
増田眞一　小花敏郎　朝比奈正二
狩野和男　川田　昭

写真左（上より）
清水　汪　福地　彊　青山　勇
高橋　裕　長谷川邦三　橋爪　壮

また同じように小学校の帰り道で高橋裕君より「世界の五大指揮者を知っているか」と聞かれ、トスカニーニしか答えられないでいると、彼は「ブルノワルター、フルトヴェングラー、ワインガルトナー、トスカニーニ、それからストコフスキー」と教えてくれた。しかしその後、指揮者評論の本を読んでも、ストコフスキーの名前は出てこなかったが、ちょうどその頃「オーケストラの少女」なる人気映画があり、最終場面でオーケストラを指揮する「ストコフスキー」の印象が強く、彼はストコフスキーを五人目に入れたのではないかと思っていたが、矢張りその様であるらしかった。この話からこの映画の話に発展するなど話が弾み、時間をオーバーする羽目になった。終わりに若き日を偲びつつ、校歌を斉唱、また再会を楽しみに散会した。なお、散会後、有志の者は「74期生浦田周社君の木版画展」のため松坂屋別館を訪れた。

また今回は集合写真ではなく、少しでも参加者の表情が分かるよう二人一組の写真を添付した。友人の顔写真に興味を持っている人が案外多いことが分かったからである。

焼酎の名ははげあたま

67期有楽会三十回総会

67期　小杉　弘

67有楽会総会は、節目の三十回を迎え四月十日(火)～十一日(水)の一泊二日の日程で実施した。残念ながら参加者は会員十九人中八人（大石脩而、岡村英二郎、児島英男、小杉謙一、鈴木敏行、手塚重明、山岡進の諸兄と筆者）でした。

初日は、小田急線、新松田駅改札口に午前十時四十五分集合。岡村英二郎君の提案でアサヒビール神奈川工場を見学。

新松田駅からバスで二十五分程乗車、南足柄市の丘陵地を登った所、澄みきった空気ときれいに刈り込んだ芝生の広大な敷地の中に、工場らしからぬ瀟洒な建物が並ぶ。

敷地の広さは十二万五千坪という。小ホールで十五分程ビールに関する知識のビデオを見た後、若い美人の案内嬢の親切な説明を聞きながら、製造工程（製麦、仕込み、発酵熟成、濾過、びん詰缶詰）を麦の香りを感じながら進んだ。

見学通路はすべてガラス張り、この工場の年間生産量は約三・一億本という。従業員は僅か二百人余。どの部屋も人影は見えない。世界最高水準の品質管理技術と最新鋭の設備で、完全オートメーション化し、コンピューターで管理されている。

工場見学後は、お目当ての試飲室に案内してくれた。そこには出来立てのビール（ビールは出来立てが一番旨い）を大コップで一人三杯、おつまみ付の無料サービスである。ここでしか味わえない最も旨いビールに大満足した。昼食は従業員食堂で割安値ですますことができた。

昼食後、バス、電車、登山電車と乗り継ぎ箱根強羅温泉に向かう。この季節は紫陽花電車とはいかないが、前山の中腹の桜を眺めながら、約五十分で強羅駅に到着した。ここで自宅から直行の児島英男君に会い同道する。

宿チェックイン前の余時間を、噴水を中心に左右対称に造られたフランス式聖型庭園の強羅公園を散策した。神奈川花の公園百選の一つと聞いたが、何故かこの日の訪問者はわれわれ以外

皆無。老齢者入園料五百円八人分が無駄となり、当番幹事として反省している。

公園西出口に宿の車が迎えに来て乗車、五分で標高八百メートルの場所にある白湯の宿・山田屋に着いた。

早速、白濁の温泉につかり今日の疲れを十分に癒した。夕食はお決まりの宴会。飲むほどに酔うほどに話が弾み、大石脩而君が熊本産の焼酎のラベルを見て、即興詩を次の如く披露した。

老友と箱根に遊び
宴会の焼酎の名は
なんとはげあたま

夕食後は、これも定番のカラオケ大会。就寝は十二時、この気力・体力に驚くばかり。

翌日早朝の温泉はやはり嬉しい。露天風呂からの朝霞に浮かぶ遠景は素晴らしかった。朝食の飲み物も懲りずに、はげあたま割りを飲み干した。手塚重明君が寿大学入学式のため、朝食後早々に帰宅した。午前十時チェックアウト、宿の車で強羅駅に送ってもらう。

今日の目的地の一つは、入生田駅前の生命の星・地球博物館見学。交通量の激しい国道一号を横切るのに、駅近くにあるエレベーターと歩道橋を利用して歩くこと三分。博物館受付で年齢証明を提示、六十五歳以上入館料無料制度を利用した。

受付横の喫茶店で朝のコーヒーを飲む。自然科学系の博物館としては日本最大級の規模を誇り、一部の化石標本や剥製などに実際に触れながら楽しく学べる体験型ミュージアムである。

小・中学生や家族連れには最適で勉強ができる。館内には、三十万点にも及ぶ豊富な化石や資料などが展示され、四十六億年にわたる地球上の多様な生命種をわかりやすく解説している。一見の価値がある。

一時間半余の見学の後、次の目的地へ。国道一号を東に向かって歩くこと約一粁。風祭（正月箱根駅伝小田原中継所）に、箱根ビール蔵がある。徒歩の汗と喉の渇きに、三種類の箱根地ビールが実に旨かった。

少し遅い昼食をここで済ませ、各々老妻を気遣ってか、売店で土産物を購入して帰途につく。午後三時半小田原駅ホームで散会した。齢七十五歳の気儘な楽しい総会でした。

傘寿を迎える年

60期　笠間　達男

今年は傘寿の誕生日を迎える我々同期会は、四月十六日午後四時から静岡駅南口の東海軒会館で行われた。出席者は四十六名のうち、関東から井田淳・上杉重吉・笠間達男・川口光次・黒田武之助・齊木学・鈴木光男・谷龍治・原善三郎・山本正三の十人が参加した。

昨年は日本平で泊りがけだったが、今年は私など日帰りの人のことを考慮して、七時にはお開きとなった。

昨年の集いの後に亡くなった人が九人いる。亡くなったことが確認された同級生が百人を越えたが、今年の物故者には、同窓会の推進役が何人かいて、ひとしおの寂しさを感じた。昨年の会に夫婦共作の人形などを展示してくれた磯谷恵一の葬儀が数日前に行われたことが報告されると、エエッという声が上がった。

一方で互いに何年ぶりかで出席して、卒業以来初めて会ったという人が幾組かいて、話が弾んでいた。中でも昭和十九年に予科練に行く車窓で別れて以来と語り合う人もいた。柔道部と剣道部はともに久しぶりにレギュラーが揃って記念撮影をしていた。

近況を伝える欠席者の報告文の多くには、本人や連れ合いの健康が欠席の理由として挙げられている。八十歳はそういう世代である。

しかし、出席者は病気を抱えている人も少なくないが、皆元気で校歌を四番まで歌い、世話人を選び、来年も元気で会おうぜという締め言葉で散会した。

◎原稿募集

同窓会会報は6月と12月に発行します。楽しく、役に立つ記事・原稿、事務局あてにお寄せください。

老いぼれを嘆くより、今熱中していることを話す

51期同期会報告

原崎　郁平

首都圏に在住する同期生と静岡の有志に案内し八名が平成十九年四月十二日に銀座の和風レストラン「富貴洞」に集まり会食した。

広瀬　毅君の名司会により愉快に進められた。司会は彼をおいてほかにいない感がある。

今回は静岡からの出席者がないのが淋しかったが狩野安彦君からのメッセージが届いているので紹介された。続いて各自が近況報告をしたが今年で殆どの人が米寿を迎える。若い時に流行っていた結核で倒れず、戦中に戦死もしないで、晩年は病魔に倒れずに生き残った仲間である。

集まると七十年前の思い出話より現代の世相を嘆き今熱中していることに話がいく。老いぼれを嘆く人は一人もいない。

高橋達郎君は大腸のポリープを除去し元気を回復している。玉越俊一君は昨年横浜市に転居したが夫婦で入居した有料ホームでの変わった生活を話してくれた。食事のことホーム内で催されるゲームや娯楽のことが興味を引いた。田中賢一君の二つの資料が配布された。①「英霊にこたえる会たより」の「高千穂降下部隊の忘れ難い人々」の記事は胸を打つものがある。特に田中君作の短歌「語りても　なお語りても　尽きざるは　国に殉ぜし　ますらおのとも」「我がよわい　温めゆかじ　国のため　語りのこさむ　こと尽きざれば」は、この資料の内容を代表しており感動した。②田中賢一角の漢詩風の小節集の中でも「偶感」の「嘗て紅顔の美少年　今や八十路の坂頂に近し　故詩に謂う　年年歳歳花相似たり歳歳年年人同じからず」ほか数編は印象に残る。林盛次君は原崎の持ち込んだ「けん玉」のAカップを見事に入れて拍手喝采を受けた。七十年前の手足の感覚が残っていたのには驚いた。伊藤濵吉君は無病だが転ばないように気をつけているとのこと。伊藤君が自衛隊にいた頃、長島・王のプロ野球で「カウンター・クロノグラフ」を使い我が国で初めて球速を測定した思い出話があったが、今で言うスピードガンのはしりである。伊藤君は小銃の権威者であったので弾速測定の技術が野球に生かされた。原崎は海外旅行を止めて毎月の国内旅行を楽しんでいる。今年になって富士山周辺の万葉旅行、伊豆大島、山陰に旅している。広瀬毅君はこの年になってパソコンを始め急速に上達していることが紹介された。渡辺功君は二年前に地下鉄の駅で突然意識不明となり倒れた時に頭に裂傷を受けたことがある。一人歩きをしないように警告していた。（以上で自己紹介終わり）記念撮影を撮り校歌を四番まで声高らかに歌い、再会を約して解散した。写真は前列左から高橋達郎、伊藤濵吉、玉越俊一、田中賢一、後列左から林盛次、渡辺功、広瀬毅、原崎郁平の八名である。

郷土の高校情報

野球部

春の甲子園で常葉菊川高が全国制覇、静高も行ける？

盛り上がる野球部、負けるな常葉菊川と、野球部OB会、後援会が四月十四日に開催された。OB会は駅前ホテルで行われ、OB会長に栗田重徳氏（83期）を再選、懇親会に入った。

来賓に岩崎校長、新任の教頭先生、歴代監督の田口一男氏、野島譲氏ら、さらに後援会長のシャンソン化粧品社長の河村修氏ら。

今年の話題はライバルである常葉菊川が春の甲子園で全国一、見事静岡に優勝旗を持ち帰ったこと。ならば我が静高も全国制覇を目指してチームができているのではと、意見をズバリ。

夏の甲子園準優勝選手、昭和48年広島商に惜敗したときの植松精一氏（90期）が苦言を呈す。「実力の差はかなりある。心して練習に励まないと甲子園どころではない」とソット自分の目で秋季試合を見てきたという。

さらに春の常葉橘高との試合を見ていて「二アウトで二塁ランナーがいて、きれいにレフト前にクリーンヒット、なのに二塁ランナーは三塁にストップ。本来なら当然ホームに帰ってきて一点取れるはず。基本が出来ていない」（稲葉保氏・78期）、いずれにせよ甲子園に出て全国一を目指す自分のチームが可愛いから苦言する。

そんな辛辣な意見の中、いちばん近くでほとんどの試合はもちろん練習にも顔を出す栗田OB会長は「今年は投手の大村と稲葉が三年計画の年、昨年から投げているし、かなり力を付けています」と期待できると言う。いずれにせよまず甲子園出場を期待したい。（77期・村松貴彦）

再選された栗田会長

お茶の心を伝える

愛国製茶

代表取締役　馬場　泰男（64期）

本　　社　東京都新宿区西早稲田3-7-9　TEL03-3207-1611（代表）
高田馬場店　東京都新宿区高田馬場4-11-12　TEL03-3633-6611（代表）

ゴルフ会――先輩からの喜寿祝いに感謝

64期　佐野　旭

第45回春のゴルフ会は、四月六日、金曜日、足柄森林カントリークラブで、関東側から六人、静岡から十人、総勢四組で催された。

この冬は「暖冬、暖冬」といわれ、三月下旬に静岡で真夏日も観測されたというのに、四月に入って「冬の気配」となり、開催二日前には「東京に降雪」という気まぐれな気候の中、富士ヶ嶺下ろしが肌にやや冷たく感ずる日でしたが、老将（兵）たちはいったんスタートすれば…。多発する珍プレー好プレーに、歓声・嘆声・笑声合い混じり、（カラ）元気いっぱい楽しい一日を過ごしました。

優勝は海外で腕を磨いて帰国早々の漆畑茂君、グロス99、ネット82（このところ上位常連です）準優勝はゴルフの虫、風間政彦君。当日も早朝から百余の特打ち。グロス89、ネット86、さらにニアピン二個を獲得、他の場所でのニアピン獲得者は井上光司君と清水照彦先輩。ブービー賞は恐らく生涯初めてであろう渡辺進弍君。グロス103、ネット102、最近彼らしくない不本意なゴルフが続いています。

戦い（？）終ってのパーティ席上、清水先輩より全員に「喜寿祝」として静岡の銘酒「万寿一」がプレゼントされました。先輩のご厚情に感謝申し上げるとともに、改めて「喜」の感激に浸り、一日を締めくくることが出来ました。本当にありがとうございました。

次回の同期会は箱根で1泊旅行を計画

67友楽会

67期　児島　英男

恒例の67友楽会を平成十八年十一月三十日(木)「美々卯」新橋店で開いた。

幹事の児島の司会で始まり、小杉弘会長の挨拶の後、同期のバスケット部で活躍された金子賢司君が七月に逝去されたことで、関東から遠藤一彦君と小杉君が葬儀に参列、遠藤一彦君が立派な弔辞を述べられた旨の報告があり、宴会に入った。

「美々卯」店自慢の鍋料理、うどんすきを囲んで、昔話しに花が咲き、楽しいひとときを過ごした。全員年配の割りに食欲旺盛、美味しいビールとお酒を飲んで、出された料理を平らげ大いに若返った。小杉会長より、この会も春と秋の年二回開いてきたが、次回は節目の三十回を迎えるので、箱根で1泊旅行をしよう、という提案が出された。最後は山岡進君のリードで校歌、岳南健児を合唱して散会した。

当日の参加者は次の通り。朝比奈正三、遠藤一彦、岡村英二郎、川上剛二、河口正義、黒石聖一、児島英男、小杉謙一、小杉弘、鈴木敏行、手塚重明、増田安国、矢部隆、山岡進

参加者は前出の五名のほか、大石次男兄、時田勝博、山本和彦、小川哲司、村上喜代二、野沢正憲、漆畑輝夫、稲森照夫、永田進一、伊藤剛の諸君と佐野旭。

次回は十月十日、一泊の懇親会も併せて実施することを申し合わせて箱根路を後にした。

石（墓、石碑）のことなら
㈱イシフク
望月　威男（77期）
熊野雄二郎（84期）
望月　茂樹（101期）
望月　秀康（107期）
〒421－1224 静岡市葵区飯間71
TEL 054－278－6610

関東の人に紹介したい良い環境
八王子
東京霊園
〒193－0826 東京都八王子市元八王子町
TEL 0426－61－6734
○お墓、石碑、建材、石のことなら気軽に相談ください。

平成十八年度 静中・静高関東同窓会会費拠出者一覧表

48 青木 香、黒水 高典、近藤 希賢

49 杉本 久敬

51 永井 五一郎、林 盛次、原崎 郁平、渡辺 功

52 大草 知久、西田 豊馬、服部 雅雄、茂呂 茂樹

53 小野 一夫、木宮 高彦、桜井 昌也、志田 寿一、宗像 醇、望月 昂

54 大畑 忠夫

55 小沢 忠樹、法月 重雄、堀江 重遠、中野 治良

56 青木 良文、奥野 進、清水 逸郎、杉原 泰二、鈴木 源一

57 坂田 秀雄、岩井 平一郎、大島 隆夫、原川 久雄

58 海野 進、島村 悟、須山 静夫、望月 恵一

59 青山 勇、内田 武二、小花 敏郎、大村 和夫、長田 宏、狩野 和男、川田 昭、近藤 陽三、清水 汪、菅原 操、勝呂 清、長谷川 邦三、原 淳、本田 豊、水野 哲也、大塚 恒、増田 真一、加納 久夫、朝比奈 正二

60 井田 淳、石関 忠雄、上杉 重吉、笠間 達男、君島 康弘、黒田 武之助、小林 金次、鈴木 光男、谷 龍治、堤 崇、時田 正康、内藤 敏夫、逸見 昭三、益田 清聞、山本 正三、山本 雅之助

61 清水 澄夫、稲森 慎二、大石 次男、奥野 泰助、片桐 篤、高山 秀男、清水 照彦、土井 正図、八木 貞二、山崎 和夫、西田 駿之介、君島 敏男、高村 岳史

62 海野 昭平、川手 生巳也、横井 一

63 入江 喜久夫、伊東 守、岡田 光二、吉川 隆士、三枝 弘之、

64・65 新井 彰、岩本 吉雄、遠藤 栄、狩野 達彦、栗田 行雄、桜井 富士男、佐野 旭、田中 耿、竹内 豊、塚本 光彦、仲野 実、永田 進一、長嶋 健、野澤 正憲、馬場 泰男、長谷川 直和、蛭川 博之、増田 政雄、松下 一男、益頭 尚之、柳田 堯、山本 和彦

66 石川 隆亮、石川 剞二、内田 幸雄、大塚 修弘、大坪 信之、大村 敏夫、加藤 昭、加藤 博司、川合 勉、河守 輝雄、久保 泰夫、小嶋 清司、小林 成敏、桜井 行彦、瀬尾 章、曽根 錦吾、原野谷 朋司、藤原 朝則、藤原 隆二、馬越 峻、馬渕 逸明、増井 和夫、三原 載、武藤 勇、村越 立彦、村松 武司、森山 秀夫、安池 智策、山下 裕一、山梨 裕司

67 朝比奈 正三、大森 恵吉、遠藤 一彦、大石 修而、岡村 英二郎、加藤 友行、川上 剛二、河口 正義、黒田 秀幸、小坂 博、小杉 謙一、小杉 弘、児島 英男、鈴木 敏行、瀧川 博、手塚 重明、長倉 孝三、福原 亨一、牧田 仁男、増田 安国、松岡 健、丸山 英久、向井 久和、山川 静夫、朝倉 勇

68 秋山 和也、雨宮 明生、荒谷 じっ子、市原 卓、稲葉 清、宇田 貞子、大川 庄治、河口 浩、杉山 和子、鈴木 國功、鈴木 俊彦、瀬口 寿一郎、瀬堂川 徹、高橋 俊見、増井 良敏、藤波 真五、星野 敏郎、望月 芳朗、吉崎 英輔、大石 博司、大石 康博

69 中村 敏郎、望月 道生

70 有田 久、石山 博、片山 智司、北村 孝、久沢 正雄、小嶋 国彦、白石 通子、清 智、関 哲男、田中 元、田中 宏志、中村 龍二、宮代 省一、若林 久二、杉山 多美

71 梅原 孝允、浦田 彰、海野 幸雄、遠藤 幸男、加藤 祐史、小池 啓治、佐藤 利治、酒井 力、実石 欣哉、富野 寿、西野 章、本間 啓司、宮崎 次郎、山田 卓夫、後藤 弘枝、渡辺 敏美、長倉 真一、前田 利彦

72 佐藤 紘一、櫻井 正之、桑原 達朗、清水 雅彦、内藤 博次、夏目 雅之、深田 均、増田 欽一、松木 茂夫、村手 正之、山口 公子、今泉 烈

73 有光 一郎、青木 俊一郎、飯塚 迪子、石川 征四郎、石川 久男、岡本 修、大河内 久、大木 茂、後藤 孝子、三枝 通康、塩津 浩、鈴木 豊、関 悦男、中西 英一、永田 俊彦、仲川 信正、中西 宏幸、西本 昇平、羽山 武、深尾 皓、松下 勝朗、松永 烈、三浦 英夫、山梨 由記、山中 博司

74 井出 宏嗣、桑原 英明、藤原 経史、松下 晴一、桑原 伊玖子、田中 佐知子、井鍋 正良、佐藤 鐘司、角谷 治子

75 今田 肇、佐藤 修二、望月 純哉、小林 銈一

76 北村 修、桑原 武、鈴木 浩、小長井 伸子

77 飯田 善久、石間 啓一、岩崎 敏宏、大岩 蓮、

ご協力ありがとうございます。

78
栗田 収司、小長井 奎幸、佐藤 昌男、柴田 哲男、清水 雅尚、滝野 光一郎、仁科 光司、三浦 昭彦、三浦 位通、村松 貴彦、森 正穀、山内 幸太郎、後藤 嘉代、柳川 信子、野方 重人、望月 威男、宮崎 一、伊藤 達雄、粟野 吉洲

79
天草 静子、五十嵐 誠、伊藤 洋之、石井 博之、石川 暢子、石田 久徳、奥山 和子、垣生 尚敬、宮地 幸、縣 保佑、石山 喬、宇田 進一、鎌田 勇、小林 勝弘、小林 俊、数原 学、多田 真行、次田 肇、友安 昭、山本 勇夫、白木 桃子

80
有本 勲、上田 尚亮、島田 洋子、小林 一義、大石 忠則、大田 節一、菅野 佳男、江川 豪雄、滝浪 博、富野 興

81
入谷 健彦、角谷 勝彦、大石 孝裕、小木 哲朗、吉野 卓史、柴山 勲、加藤 壹康、柴田 裕、岡澤 和好、鈴木 真男、鈴木 素明、仲谷 博明、本多 英一、水上 俊彦、森下 鉄夫、山本 景正、吉田 雅彦、日比野 彰子

82
秋山 好、伊藤 寿男、君塚 静男、鈴木 良彦、多賀谷 秀保、堀内 淳司、細川 晃、八牧 浩行、吉田 昌史、大村 多聞、新庄 忠夫、田畑 秀典、永野 順治、宮城島 仁、金子 恵子、吉田 和子、青木 弌、伊沢 佐知子、石川 倫男、石部 憲治、岩崎 年史、狩野 行雄、計良 光一郎、計良 知子、久野 淑子、西野 直樹、中村 豊、鈴木 潤、

83
鈴木 秀孝、富永 武則、増井 敬、渡水 実根子

84
生駒 光博、川辺 真、鈴木 啓俊、高田 理孝、古谷 良樹、松島 勤、大隅 恵子、藤森 潤子、吉野 文江、大塚 博史、塩谷 立、山田 孝夫、杉山 順一、野口 洋一、杉山 昇、柚木 俊二、高瀬 荘一、勝地 次郎、鈴木 正利、吹井 奨三

85
石垣 政博、栗田 博通、池田 幸司、佐久田 博司、林 晴子、北條 正裕、安本 敬、三上 嗣夫、伊東 成師、杉山 由紀子、増井 喜一郎

86
近藤 孝邦、江川 彰子

87
平岩 正史、藁科 名雄、石川 嘉和、山口 恵久、遠藤 久資、高橋 宏、石渡 洋行、川口 代志子

88
池田 登巳雄、谷口 ひとみ、田中 育恵

89
鳥巣 修、吉永 幸弘、新村 暢宏、北村 佳久、西谷 昭、渡辺 明人、北村 美佐子、山崎 真紀子

90
荒井 千明、川島 雅行、宮沢 玲子、栗山 伸一、小川 修史、森田 悦三

91
藤嶋 善彦、高石 和秀、倉沢 千明

93
岡村 幸彦、大羽 章弘

94
井上 徹也、亀山 晴信

95
佐藤 義孝、岡部 正明、尾下 康宏

96
朝比奈 正人

99
嶋 三四郎

100
五十嵐 寧

107
岡部 伊隆

○各期ごとに幹事役を決めて同窓会・同期会の活発化を図っています。
○幹事未定の期は至急選出して連絡してください。

関東同窓会会費
一年間 3000円
関東同窓会の会計年度は、4月1日より3月31日までのものです。静岡本部は10月1日からで、異なりますのでご注意ください。

同窓生の輪を実感

私事ですが四月に兄が湯河原で亡くなりました。すぐ上の兄で、一番親しくしていた兄弟だったので、その後の仕切りをしなくてはならず、地縁・血縁は無く困ってしまいました。その時思い出したのは静高で一つ下の垣生さん（78期）でした。その前に彼が葬儀関係の会社に関係していたことを思い出し連絡しました。

「任せてください。全国組織ですから、どこでもやります」と快諾、素早く対応してくれました。しかもかなりな安価でやってくれました。

「上からの指示ですから」と丁寧な進行をしてくれたその時の責任者。無事葬儀を執り行うことができたのも彼のお陰と感謝。緊急で困った時には是非同窓生を訪ねてください。いい助言が得られると思います。

（77期・清水雅尚）

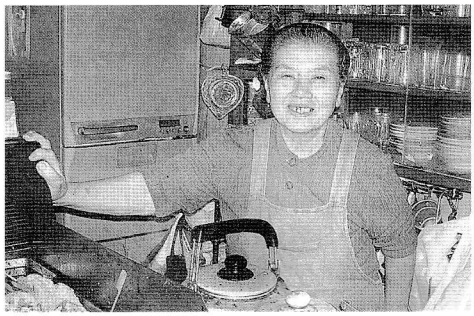
帰省の折たまに寄ってみよう。
全国区になった静岡おでんの格安居酒屋「たこ八」

「青葉通りで屋台として十三年、この横丁に移って三十七年、おでん一筋合せて五十年になります」と元気いっぱいな山村竹代さん。小柄な体で手際よく接客、調理する。

青葉通りで営業していた屋台を二十軒余、近くの常磐町一丁目の青葉横丁に移し、その一軒が「たこ八」。屋台同様十人ほどで満杯になる店で、牛筋でとった黒っぽい出汁に串刺しの具材がいっぱい。おでん鍋が狭い店に二つも並び「お好きなものを勝手にとって食してもらうシステムです」（山村さん）。その昔、おでんの串を数えて会計する店が多くあったが、今でもそのまま。

「美味で超安値段。フライ、てんぷら、焼き鳥もありまたすぐ通う卓店です」と常連客。

（77期　村松貴彦）



鈴与株式会社

取締役社長　鈴木与平（76期）

〒424-0942 静岡市清水区入船町11－1
TEL 0543（54）3015（秘書課）
京浜支店　〒105-0011 東京都港区芝公園1－2－12
TEL 03（3432）7152

日本レーベル印刷株式会社

代表取締役会長　岩井平一郎（57期）

本　　社　〒422-8004 静岡市駿河区国吉田3丁目1番1号
TEL 054（262）1111(代)
東京支社　〒104-0031 中央区京橋1-1-6 越前屋ビル8F
TEL 03（3272）4651（代）

株式会社 冨士越化成

代表取締役会長　野澤正憲（64期）

〒140-0004 東京都品川区南品川2－17－11
TEL 03（5783）3841
FAX 03（5783）3755

松下税理士事務所

税理士　松下晴一（74期）

〒101－0047 東京都千代田区内神田2-6-2(矢板ビル4F)
TEL 03（2354）8891
FAX 03（2354）8857

東京無線タクシーグループ
公和自動車交通株式会社

〒162-0813 東京都新宿区東五軒町3-3 ☎03-3269-3281

都心のオアシス・ゴルフ練習場
(株)公和ゴルフセンター

大江戸線・若松河田駅隣り　☎03-3202-6558

代表取締役　山中博司（73期）

自動車・火災・傷害保険
大高保険事務所

代　表　清水雅尚（77期）

〒150-0011 東京都渋谷区東3－15－8
TEL 03（3406）9350
携帯 090－7800－3767

同窓会で人の輪を!!
野方重人法律事務所

弁護士　野方重人（77期）

〒101-0045　千代田区神田鍛冶町3－7－3
藪下ビル6F
（TEL）03（3251）2348
（FAX）03（3257）0820

＊昼2時より夜11時まで診療＊
タカラ歯科診療所

代　表　藁科名雄（ワラシナ アキオ）（87期）

東横線　中目黒下車　徒歩5分
TEL 0120－376－480
FAX 03－3710－8847

相続税・法人税・所得税などのご相談はどうぞ！
鳥巣修税理士事務所

税理士　鳥巣　修（89期）
OSAMU TOSU

〒167-0041　東京都杉並区善福寺1－30－17
TEL 03(3396)3858　FAX 03(3396)3848
E-mail：tosu@mtj.biglobe.ne.jp

調剤薬局……関東・東海・関西中心に100余店舗
株式会社 アイセイ薬局

健康と幸せを願って

代表取締役　岡村幸彦（93期, 応援指導部）

〒103-0014 東京都中央区日本橋蛎殻町2－14－5
TEL 03（5651）7200
http://www.aisei.co.jp